



# ～現地ではできないことがある！～ カンボジア出張帰国報告

作成：上下水道局海外事業課

発行日：令和3年3月19日



昨年12月からの約2カ月半のカンボジア出張を終え、先日、無事に職場へ戻ってきました。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、海外渡航のためには**複数回のPCR検査**や**入出国時の2週間の隔離待機**など**厳しい条件**があります。中でも、**海外水ビジネス事業を前に進めるため**に、現地へ渡航しました。今回は、その帰国報告です。



主な業務：上下水道セミナー開催  
浄水場建設・配管布設工事への助言  
海外水ビジネス支援



## <活動と成果>

### ● 日本カンボジア上下水道セミナー

日本とカンボジアの複数の会場をつなぎ、参加者が250名にも及ぶ**オンライン国際会議**を開催しました。大勢の関係者・要人が関与するイベントであり、**現地での入念な事前準備と打ち合わせが必要**で、職員が現地に出張しなければ開催できませんでした。現地会場の進行管理を担当した私は、なかなか味わうことのない緊張感と達成感を体験することができました。



セミナーの司会

### ● コンポントム上水道拡張事業アドバイザー業務

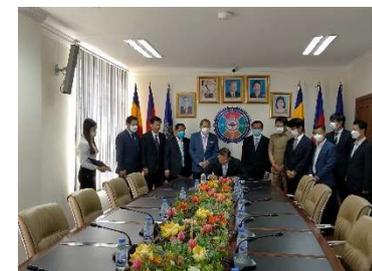
これまでの北九州市での業務経験を生かし、**現地の浄水場建設や配管布設の施工に関するアドバイス業務**を実施しました。日本では浄水場建設のような**大規模拡張事業に携わる機会**はほとんどなく、海外でこのような業務を経験することは、私自身を含め職員の技術力の向上につながる貴重な経験になります。



建設が進む浄水場の現場

### ● 海外水ビジネス推進支援事業

北九州市海外水ビジネス推進協議会の会員企業が、カンボジアでの業務契約を円滑に締結できるよう、**現地の状況確認、現地政府機関との調整などの支援業務**を行いました。その他にも、新規事業の案件形成のために、現地確認や住民へのヒアリングを行いました。このヒアリングを通し、現在の井戸水の水質の問題や、水道への期待など、**住民の生の声**を聴くことができました。



工業科学技術革新省大臣署名式に同席

### ● 感想(出張を終えて)

多くの関係者と直接会うことによる**信頼関係の構築**や**自分の目と耳で現場を直接確認**することなど、現地に出張しなければできないことが多くあります。少しでも早く以前の生活を取り戻し、海外渡航ができるようになるため、私たちも新型コロナウイルス対策に協力しなければならぬと改めて感じました。

報告者：上下水道局海外事業課 主査 大島 佳希

カンボジア入国後の2週間のホテル待機中は、部屋から一步も出ることができませんでした。洗濯は手洗い、食事は電話で注文し部屋の入口で受取るというようなものでした。待機中の食事も、限られたメニューを食べ続けたりと、貴重な経験になりました。

トランジットの韓国・仁川空港でも団体行動で自由行動はできませんでした→

